

WCRL ラリーオビディエンス

Level 2

レベル2のコースは、20~22枚のサインで構成される（「Start」、「Finish」及びボーナスエクササイズは除く）。全てのコースはオフリードで行われる。

レベル2 エクササイズ内容

2枚以上のサインを必要とするエクササイズでは、全てのサインを行った時点で完了とみなされる。

	<h3>31. 8の字ヒーリング</h3> <p>4つのフードボウルが、対角線上で3m間隔と1.5m間隔とのダイヤモンド型に配置されている。フードボウルの中には少量の食べ物が入っているが、犬が食べてしまわないようにワイヤーなどの網目状のもので覆われていること。</p> <p>8の字へは、サインを右側にしてエントリーし、3m間隔で配置された2つのフードボウルを8の字にヒーリングする。3m間隔のフードボウルとエントリーとの配置によって、8の字は縦にも横にもなり得る。このエクササイズに停止はない。ハンドラーは、犬にフードボウルから離れておくよう指示を出してもよい。</p>
	<h3>32. 止まれ（おすわり）ー犬から離れる</h3> <p>このエクササイズは、32・33の2つのサインからなる。最初のサイン（32）でハンドラーは停止し、ヒールポジションに犬を座らせて待たせる。ジャッジからの指示なく、ハンドラーは33のサインまで離れる。</p> <h3>33. 振り返るー（角度のある状態から）呼び戻して正面におすわりー右もしくは左からヒールポジションへ</h3>
	<p>このサインは、32の前へ3m、左右どちらかへ1.2~1.8m離れて置かれている。そのため犬は、斜めにハンドラーのもとに来ることになる。</p> <p>ハンドラーは、このサインまで来たら振り返る。この時、犬の方を向くのではなく、犬に対して平行に向かい合う。またもジャッジの指示なく、ハンドラーは犬を呼び戻し、正面に座らせる。犬は斜めから向かって来て、頭もしくはカラーに触れられる程度に寄って正面に座る。その後ハンドラーは、左右どちらかから犬をヒールポジションに座らせるように指示を出す。</p>

 <p>34</p>	<p>34. 止まれ（おすわり）－犬から離れる－呼び戻す</p> <p>このエクササイズは、34と35、さらに36もしくは37を加えた3つのサインからなる。最初のサイン（34）でハンドラーは停止し、ヒールポジションに犬を座らせて待たせる。ジャッジからの指示なく、ハンドラーは35のサインまで離れる。</p>
 <p>35</p>	<p>35. 振り返る－呼び戻して正面におすわり</p> <p>ハンドラーは、このサインまで来て振り返り、ジャッジの指示なく、犬を呼び戻して正面に座らせる。犬は、頭もしくはカラーに触れられる程度に寄って座ること。このサインは犬が正面に座って終了となるため、必ず36もしくは37のエクササイズへ続く。</p>
 <p>36</p>	<p>36. 右側から後ろをまわって停止</p> <p>犬が正面に座っている状態から、ハンドラーは犬に、右側からヒールポジションに座らせるよう指示を出す。犬はハンドラーの右側から、後ろを回ってヒールポジションに座る。</p>
 <p>37</p>	<p>37. 左側から回り込んで停止</p> <p>犬が正面に座っている状態から、ハンドラーは犬に、左側からヒールポジションに座らせるよう指示を出す。犬はハンドラーの左側から、回り込んでヒールポジションに座る。犬がハンドラーの左側に向かって跳び上がり、空中で回転するようにヒールポジションに入る“フリップ”の動きでも許容される。</p>
 <p>38</p>	<p>38. 止まれ（おすわり）－180° まわれ右－止まれ（おすわり）</p> <p>ハンドラーと犬は停止し、犬はヒールポジションに座る。ハンドラーは犬にヒーリングを指示し、その場で右回りに180°回転する。犬はハンドラーとともに動き、2回目の停止で再びヒールポジションで座る。ハンドラーは、紙皿程度の範囲内で回転すること。</p>

	<p>39. 止まれ（おすわり）－180° まわれ左－止まれ（おすわり）</p> <p>ハンドラーと犬は停止し、犬はヒールポジションに座る。ハンドラーは犬にヒーリングを指示し、その場で左回りに180° 回転する。犬はハンドラーとともに動き、2回目の停止で再びヒールポジションで座る。ハンドラーは、紙皿程度の範囲内で回転すること。</p>
	<p>40. 止まれ（おすわり）－まわれ右をして前へ進め</p> <p>このエクササイズは回転後に停止（おすわり）をしない事を除き、38と同様に行う。ハンドラーは犬にヒーリングを指示してその場で右回りに180° 回転し、そのままヒールポジションにいる犬とともに前進する。</p>
	<p>41. 止まれ（おすわり）－まわれ左をして前へ進め</p> <p>このエクササイズは回転後に停止（おすわり）をしない事を除き、39と同様に行う。ハンドラーは犬にヒーリングを指示してその場で左回りに180° 回転し、そのままヒールポジションにいる犬とともに前進する。</p>
	<p>42. 正面でおすわり－後方へ1歩、2歩、3歩下がる</p> <p>エクササイズ15で記述されているように犬を正面で座らせた後、ハンドラーは後方へ1歩下がって停止する。続いて2歩下がって停止し、さらに3歩下がって停止する。犬はその都度ハンドラーに向かって進み、ハンドラーが停止する度に正面でおすわりをする。このサインは犬が正面に座って終了となるため、必ず36もしくは37のエクササイズへ続く。</p>
	<p>43. ジャンプへの送り出し－ハンドラーは並走する</p> <p>使用するジャンプはハイジャンプもしくはバージャンプであり、ブロードジャンプは使用されない。このエクササイズは、ジャンプの前に約4.5m～6m、右に1.8mの地点から始まる。ハンドラーは犬にジャンプを指示し、ジャンプの右1.8mのライン上を走る。犬がジャンプを跳び終えたら、ハンドラーは犬をヒールポジションに呼び次のサインへと進む。犬がハンドラーより速い場合、呼び戻しても減点にはならない。1.8m幅を示すラインを引いても良い。</p>

	<p>44. 止まれ（おすわり）－犬から離れる－走りながら正面に呼び込んでおすわり</p> <p>ハンドラーと犬は停止し、犬はヒールポジションに座る。ハンドラーは犬を待たせ、前方に走って離れる。2～3歩走った後、ハンドラーは犬を正面のおすわりへと呼び込む。犬はすぐにハンドラーに追い付くように走り出さなければならない。犬が近づくに従ってハンドラーはスピードを落とし、犬を正面のおすわりに入ってこさせて停止する。この時ハンドラーは、犬を正面に呼び込むために3～4歩後退しても良い。ハンドラーの走るスピードは、犬のハンドラーへの追い付き方による。このサインは犬が正面に座って終了となるため、必ず36もしくは37のエクササイズへ続く。</p>
	<p>45. 前進中のふせ－前へ進め</p> <p>前進中、ハンドラーは犬に、おすわりで留まることなく直接ふせをするよう指示をして停止する。犬が伏せたら、ふせから直接ヒーリングになるよう前進する。ふせを指示する際にハンドラーは、ヒールポジションから外れ、犬の前に回り込んでふせを指示しても良い。この場合、犬が伏せたら、ハンドラーはヒールポジションに戻り、ふせから直接前進する。</p>
	<p>46. 止まれ（おすわり）－速く前へ進め</p> <p>ハンドラーと犬は停止し、犬はヒールポジションに座る。ハンドラーは犬にヒーリングを指示し、すぐに停止状態から駆け足で前進する。このサインは、必ず21のエクササイズへ続く。</p>
	<p>47. 止まれ（おすわり）－右にサイドステップ－止まれ（おすわり）</p> <p>ハンドラーと犬は停止し、犬はヒールポジションに座る。ハンドラーは右方向に真横に1歩移動して停止する。犬はハンドラーとともに右に移動しヒールポジションで座る。その後ハンドラーは、犬にヒーリングを指示し次のサインへ進む。</p>
	<p>48. 犬にハンドラーの周りを右回りさせてまわれ左</p> <p>前進中、ハンドラーは犬を右回りに周りを回らせ、自身は180°まわれ左をする。犬は、ハンドラーの後ろを回ってヒールポジションに戻り、ハンドラーとともに反対方向へと進む。</p>

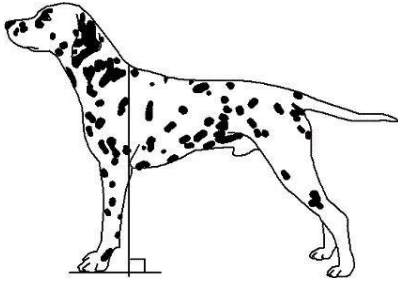
 <p>Level 2 Bonus Exercise 1 Sign 1</p> <p>Moving Down Leave Dog</p> <p><small>March 2015</small></p>	<p>ボーナスエクササイズ1. 前進中のふせー犬から離れる/ (振り返って) 呼び戻して正面におすわりー右もしくは左からヒールポジションへ</p> <p>このエクササイズは2つのサインからなる。 1枚目のサインで、ハンドラーは犬を伏せさせ、止まることなく2枚目のサインまで犬から離れる。ハンドラーは、ふせを指示する際に、振り返ったり犬と対面しても良いが、躊躇なく犬から離れること。もしくはハンドラーは、2枚目のサインまで犬と対面したまま後ろ向きに歩いて離れても良い。とにかく、犬に伏せを指示する時、また犬から離れている間、ハンドラーの動きはスムーズで連続的でなければならない。</p> <p>2枚目のサインでは、ハンドラーは振り返って犬と対面し、正面のおすわりへと犬を呼び込む。犬は速やかにハンドラーの正面まで来て、ハンドラーが頭もしくはカラーに触れられる程度まで寄って座る。その後ハンドラーは、左右どちらかから犬をヒールポジションに座らせるように指示を出す。</p>
 <p>Level 2 Bonus Exercise 1 Sign 2</p> <p>(Turn) Call To Front Finish R/L</p> <p><small>March 2015</small></p>	
  <p>Level 2 Bonus Exercise 1 Sign 3</p> <p>Halt Leave Dog</p> <p><small>March 2015</small></p>	<p>ボーナスエクササイズ2. 止まれ (おすわり) ー犬から離れる/ 振り返るー呼び戻して正面におすわり (刺激の中での呼び戻し)</p> <p>このエクササイズは2つのサインからなる。 1枚目のサインでハンドラーは停止し、ヒールポジションに犬を座らせて待たせる。ジャッジからの指示なく、ハンドラーは、1.8m~3m離れた2枚目のサインまで離れる。</p> <p>2枚目のサインで、ハンドラーは振り返って犬と対面し、ジャッジの指示なく、ハンドラーは犬を呼び戻し、正面に座らせる。ジャッジは、犬と対面しているハンドラーの約1.8m横に離れて立っており、犬がハンドラーのもとに来ると同時に前進し、犬の約1.8m横をすれ違う。犬はハンドラーが頭もしくはカラーに触れられる程度まで寄って座る。犬はジャッジを無視し、直接ハンドラーのもとへ来て正面で座ること。ヒールポジションで座らせる必要はない。</p>
  <p>Level 2 Bonus Exercise 2 Sign 2</p> <p>Turn Call Front</p> <p><small>March 2015</small></p>	
  <p>Level 2 Bonus Exercise 1 Sign 1</p> <p>Halt Leave Dog</p> <p><small>March 2015</small></p>	<p>ボーナスエクササイズ3. 止まれ (おすわり) ー犬から離れる/ 振り返ってふせ</p> <p>このエクササイズは2つのサインからなる。 1枚目のサインでハンドラーは停止し、ヒールポジションに犬を座らせて待たせる。ジャッジからの指示なく、ハンドラーは、2.4m~3m離れた2枚目のサインまで離れる。</p> <p>2枚目のサインで、ハンドラーは振り返って犬と対面し、犬にふせを指示する。犬は前後に移動することなく直接伏せること。犬が伏せたら、ハンドラーは犬のもとに戻り、ヒールポジションに立つ。ハンドラーは、自身の右側 (犬の左側) から犬の横を通り過ぎ、犬の後ろを回ってヒールポジションへと戻る。</p>
 <p>Level 2 Bonus Exercise 1 Sign 2</p> <p>Turn and Down</p> <p><small>March 2015</small></p>	

ジャンプの高さ

ジャッジング前に、必ずしも体高の測定を行うことはないが、正規よりも高さの低いクラスにエントリーしているとみなされた場合には、その場で測定することもある。ジャンプは、年齢、視覚障害や可動用具の使用など身体的に障害がある場合には、高さを修正することも可能である。その場合ハンドラーは、身体的障害によりジャンプの高さを変更したい旨、「エクササイズ修正申請フォーム」として提出しなければならない。

※体高…地面から肩甲骨の一番高いところ（き甲）まで

<体高の測り方>



<ジャンプの高さ>

犬の体高	ジャンプの高さ
～29cm	10cm
30cm～39cm	20cm
40cm～49cm	30cm
50cm～	40cm

ジャンプについて

ジャンプは、どの犬に対しても安定性と安全性を備えた作りであること。ジャンプ幅は120cm～150cmであり、シングルバージャンプが好ましいが、必須ではない。